

## 再評価結果（令和4年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課  
担当課長名：長谷川 朋弘

<b>事業名</b> 一般国道414号 <small>いずじゅうかん</small> 伊豆縦貫自動車道 <small>かわづしもだ</small> 河津下田道路（I期）	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 中部地方整備局			
<b>起終点</b> 自：静岡県下田市箕作 至：静岡県下田市六丁目	<b>延長</b> 5.7km				
<b>事業概要</b> 伊豆縦貫自動車道は静岡県沼津市岡宮を起点とし、伊豆の国市、伊豆市等の主要都市を経て下田市へ至る延長約60kmの高規格道路です。 本事業の一般国道414号河津下田道路（I期）は、下田市箕作を起点とし、下田市六丁目に至る延長5.7kmの道路であり、交通渋滞の緩和、救急医療への貢献、緊急輸送道路の機能強化の3点を主な目的として事業を推進しています。					
H10年度事業化	H26年度都市計画決定	H28年度用地着手	R3年度工事着手		
<b>全体事業費</b>	260億円	<b>事業進捗率</b> (令和3年3月末時点)	約24%	<b>供用済延長</b>	0km
<b>計画交通量</b>	10,000台/日				
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> (事業全体)	1.1 (1.6)	<b>総費用</b> (残事業)/(事業全体) 580/5,513億円 事業費：455/5,200億円 維持管理費：125/313億円	<b>総便益</b> (残事業)/(事業全体) 1,489/6,138億円 走行時間短縮便益：1,287/5,524億円 走行経費減少便益：146/466億円 交通事故減少便益：56/148億円	<b>基準年</b> 令和3年
	(残事業)	2.6 (2.5)			
<b>感度分析の結果</b> (事業全体) 交通量：B/C=1.1~1.2(交通量±10%) 事業費：B/C=1.01~1.2(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.1~1.2(事業期間±20%) (残事業) 交通量：B/C=2.4~2.7(交通量±10%) 事業費：B/C=2.3~2.8(事業費±10%) 事業期間：B/C=2.4~2.7(事業期間±20%)					
<b>事業の効果等</b> ①円滑なモビリティの確保 ・並行区間等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・並行区間等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する又は新たなバス路線が期待できる ②都市の再生 ・市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携がある。 ③国土・地域ネットワークの構築 ・日常活動圏中心都市（下田市～沼津市）へのアクセス向上が見込まれる。 ④個性ある地域の形成 ・主要な観光地（下田市、南伊豆町などの南伊豆地域）へのアクセス向上が期待できる。 ⑤安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設（順天堂大学医学部附属静岡病院）へのアクセス向上が見込まれる。 ⑥災害への備え ・第一次緊急輸送道路として位置づけられている。 ・緊急輸送道路の代替路線を形成する。 ⑦地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる。 ⑧生活環境の改善・保全 ・NO2排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。					
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> ・1県8市8町4団体から構成される伊豆縦貫自動車道路建設促進期成同盟会が早期整備を要望。 ・61団体から構成される伊豆縦貫自動車道建設推進期成同盟会が早期整備を要望。 ・1市5町15団体から構成される伊豆縦貫自動車道「河津下田道路」及びアクセス道路建設促進期成同盟会が早期整備を要望。					

県知事の意見

対応方針（原案）のとおり、事業の継続について、異存ありません。

伊豆縦貫自動車道は、新東名、東名から、伊豆半島南部までを結ぶ高規格道路であり、日常生活や観光、産業活動の交通手段を自動車に大きく依存している伊豆地域において、「経済の好循環」、「災害時の救援活動の支援」、「救急搬送等の医療活動の支援」など、様々な効果が期待され、伊豆地域全体の発展と安全・安心に寄与する重要な事業です。

本事業の整備効果が早期に発現できるよう、引き続き必要な予算の確保とコスト縮減の徹底に努め、事業を推進するようお願いします。

また、各年度の事業実施に当たっては、引き続き本県と十分な調整をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

・「事業継続」することは「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

・夏期観光期には観光客が増え、主要渋滞箇所である中島橋交差点等で顕著な渋滞が発生。（中島橋交差点；最大渋滞長2.7km）

・下田市には、第二次救急医療施設へ15分以内で到達できていない地区が存在。

・国道414号は浸水が想定されており、地域唯一の広域防災拠点への物資搬入や防災拠点から各市町への物資搬送が懸念。

事業の進捗状況、残事業の内容等

・事業進捗率は約24%、用地進捗率は約29%となっている。（令和3年3月末時点）

・下田北IC（仮称）～下田IC（仮称）間（延長5.7km）は、都市計画決定・環境影響評価手続き完了。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・下田市箕作から下田市六丁目（延長5.7km）は、早期開通に向けて用地買収及び工事を推進。

施設の構造や工法の変更等

・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進していく。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

・以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。